

総論

満点	100点	目標得点	70点	試験時間	60分	偏差値	A:70 B:72
大問数	3	小問数	78				
【解答形式】		選択式	54/78問	記述式	21/78問	論述式	3/78問
【問題難易度】		C	10/78問	B	27/78問	A	41/78問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：大問3問。外交史・社会経済史・文化史と、差がつくテーマから出題。
- 2：細かな知識の解答が要求される。記述問題は漢字ミスに注意。
- 3：選択肢は五十音順。答えになりそうな語句を選び出し吟味する訓練が必要。

こんな力が求められる！

慶應義塾大学商学部の出題傾向には一貫性がなく、外交史を出すこともあれば、土地制度史などの社会経済史、ふつうに政治史を出すこともある。文化史を大問で出すこともあるのは特徴的で、文化史も、他の分野と同様の得点力をつけておく必要がある。戦後史も出すことがあるので、学習しておくべきである。

暗記をすれば答えられる問題が多いが、慶應受験生は多くが答えられる問題であり、ここはミスできない。漢字のミスも致命的なので、日ごろから練習しておく必要がある。さらに覚えたことから類推して選択肢を絞り込んだり、論述ができるという力が、合格に必要とされる。

今年度は、山川の教科書を意識した出題があった。山川の教科書を熟読しておく必要がある。読みながら納得をして、疑問点は用語集を引くなど、歴史を自分のものにしておくことが必要である。

大問別分析

【I】

予想点	31/100点	時間配分の目安	20/60分
出題分野・テーマ	遣唐使を中心とした古代の外交史		
出題形式	選択15問、記述7問、論述2問		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す [A] (1)(2)A (3)(4)B (5)(6)A (7)(8)B (9)(10)B (11)(12)A (13)(14)B (15)(16)A (17)(18)C (19)(20)A (21)(22)A (23)(24)C (25)(26)A (27)(28)A (29)(30)B [B] (ア)A (イ)A (ウ)A (エ)A (オ)A (カ)A (キ)B [C] B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：3月期①3・4回、3月期②2・3回、冬期対外交渉史I 1回 センター：3月期①2・3回、3月期②1・3回、冬期対外交渉史I 1回		

●本大問の特徴・概要

遣唐使を代表とする古代の外交史を中心として、政治・あるいは仏教などの文化史も問うている。どのジャンルにおいても、やや細かい知識が要求され、ここが合否を分けると言えよう。難問と思われるレベルまでおさえておいてよい。

●注目すべき小問

恵慈は私大では頻出。鬼室福信や朝倉宮はできる受験生もいると考えられ、合否を分ける問題だろう。三経義疏・重祚・阿倍仲麻呂・凌雲集・入唐求法巡礼行記などは、漢字ミスで差がついてしまうので、気をつけるべきである。論述は、朝貢と暦の使用が解答例であるが、少なくとも1つは書けるとよい。

【II】

予想点	33/100点	時間配分の目安	20/60分
出題分野・テーマ	中世の社会経済史		
出題形式	選択17問、記述8問		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す [A] (31)(32)B (33)(34)B (35)(36)B (37)(38)B (39)(40)B (41)(42)A (43)(44)C (45)(46)A (47)(48)A (49)(50)A (51)(52)A (53)(54)A (55)(56)C (57)(58)A (59)(60)A (61)(62)C (63)(64)B [B] (a)B (b)C (c)A (d)A (e)B [C] (ク)B (ケ)A (コ)B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：4月期4回、5月期1・2・3回、11月期4回、冬期社会経済史I 2回 総合：4月1・2・3・4回、11月3回、冬期社会経済史I 2回		

●本大問の特徴・概要

山川の教科書をベースにした社会経済史の出題。細かい用語が多く、得点差がついた大問だと思われる。社会経済史は差がつく所なので、しっかり内容を把握することが、得点力につながる。

●注目すべき小問

割符や祠堂銭、頼母子・供御人・神人などは差がつく問題。平野は自由都市の中から「末吉」をヒントに摂津国にあったものを選ぶ。東大寺領の兵庫北関は、難関大ではそこそこ出題される。黒川金山は甲斐と伊豆の二択にまで絞り込めればよい。

【Ⅲ】

予想配点 36/100点	時間配分の目安 20/60分
出題分野・テーマ 近代の教育史	
出題形式 選択22問、記述6問、論述1問	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す	
[A] (65) (66) B (67) (68) B (69) (70) A (71) (72) B (73) (74) B (75) (76) A (77) (78) A (79) (80) C (81) (82) C (83) (84) C (85) (86) B (87) (88) A (89) (90) A (91) (92) A (93) (94) A (95) (96) A (97) (98) A (99) (100) A (101) (102) A (103) (104) A (105) (106) B (107) (108) A [B] (f) A (g) A (h) B [C] (サ) A (シ) C (ス) B [D] B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定	
ハイレベル・総合：7月期2回，夏期近現代史Ⅰ1・3回，10月期2・3回 センター：6月期4回，7月期2回，夏期センターレベル文化史4・5回，9月期1回，冬期実戦演習	

●本大問の特徴・概要

慶應義塾大学商学部は文化史を大問で出すことがある。今年度は教育史であったが、化政文化・明治文化などの時代ごとの出題もある。文化史は得点源にしておくべきだ。

●注目すべき小問

福沢諭吉の著作『訓蒙窮理図解』・『世界国尽』・『帳合之法』は度を越した悪問。被仰出書も記述問題としては不適切に思う。しかしその他は基本問題が多い。3分の2は得点したい。論述は、日清戦争の後から、賠償金を思い出す。